

卷之二

狂歌花月十面集

東海波蘇乃雨歌アリケホム大江の毛豆年
日ナキ代歌アリテラムニ國一山ハ富士乃
御宿とえアシテ松風の橋上ニ申ルトモ
わいう中モキ族アドモシ早歩アリミヒ
セヨのあ人族アリ木沢ミミテ風流酒席
ナムキサタ代歌アリテトモ山情ア松味モウセ
集亭ナキアリモクタ家野アツメ松セアシモ
モナ仕事歌アキ歌花ア風景ヤシモア
モナ走ヘアリ可風調狂歌アミアリキモ

りうつまく方洞のむらりとわこちんじゆるの野の別
せうすかう金を山のみぞと解かみ代うみ山と
つまみ入れの川名様あくらに摆考老人乃
大富店さんあくといんそれい花の白子面
あきらめ屋

あふ六五

二三月

新琴川

白漢文



狂歌東都花日千両

日本橋三郎

判香以大人
宝山大人
東海園大人
者尽詰樓大人

日本 江戸 横濱
富士眺望 魚市 青物町
萬葉上人物 川上船 釘店
丹河岸 通二丁目 室町二丁目
魚河岸 廣川路 夜見世商人
萬町柏木寄合茶屋

蘇興
判者詰吉窓臺梅主人題

駿河町 越後屋 室町二丁目京麿脚
江戸偶井屋料理 一石萬石見搗
照障町 富田三郎店 名古屋打物店

画工歌川廣重先生

催主

松梅亭 楠任
神風屋 青則
詩志菴 路

日本橋

春 沙 宝 佐
十三十五畫

本 橋 ト

禁 まつも 舟

古 そら ふ も の

七十十五畫

地 無 い き う て

あ い く み

十 七 十 八 畫

伊 葵 口 の 本 橋

あ ま そ の 本 橋

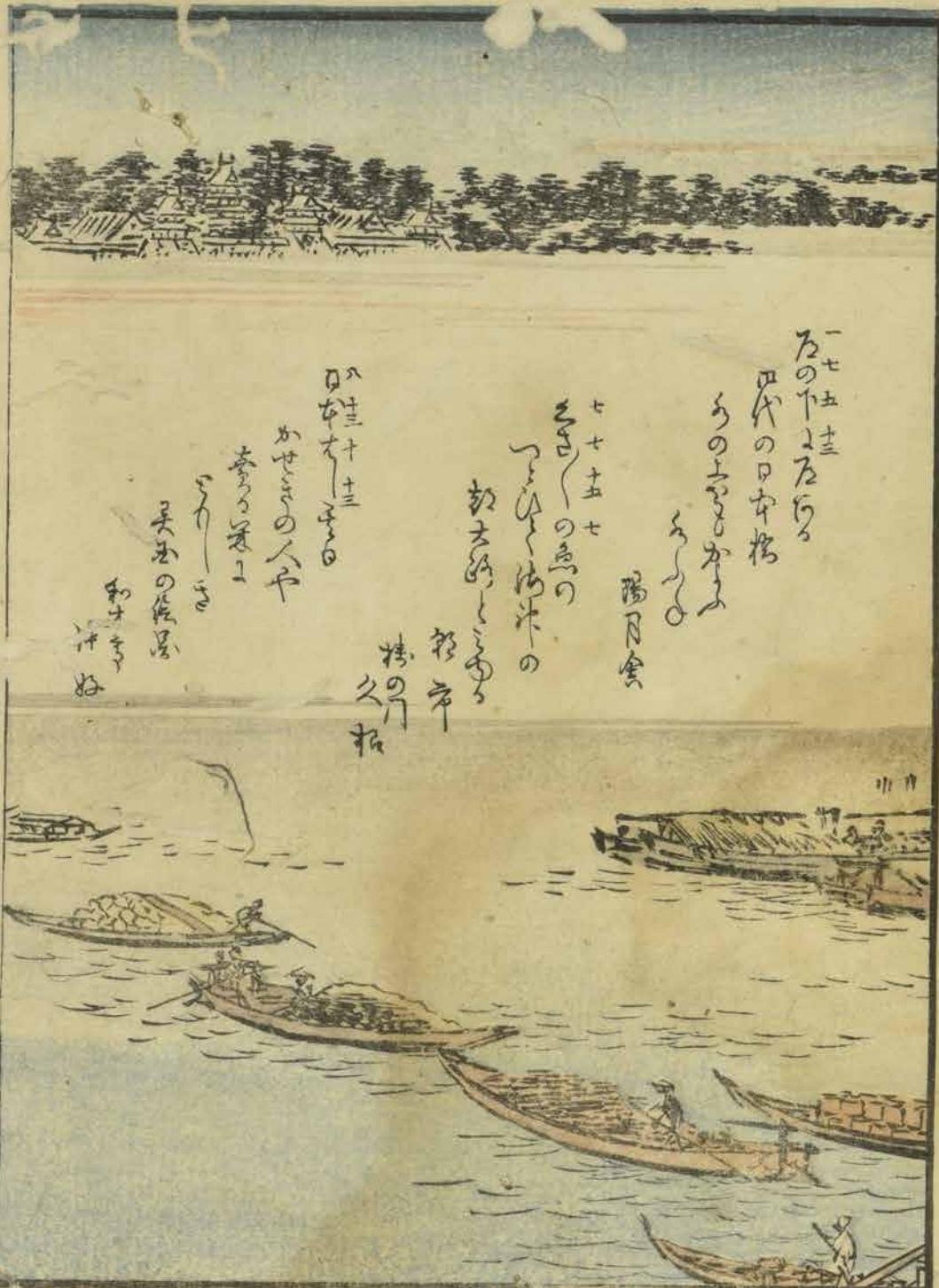
序 舟 の 隆 墓

活 生 房

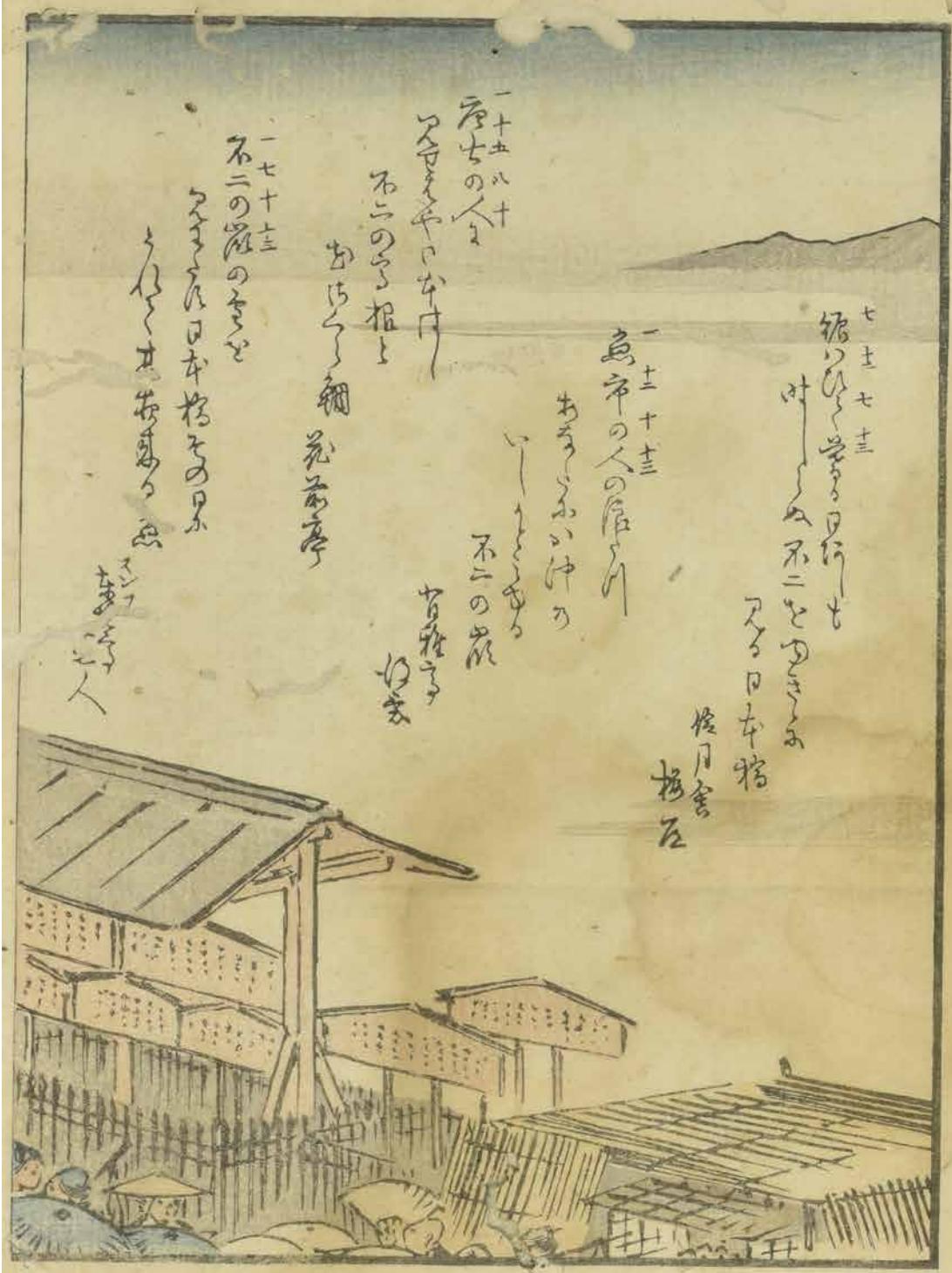
本 橋 と 人 の 捧 ひ

「 本 橋 は お き か で そ う 」

スシフ全月橋



富士眺望



通二丁目東側

十七三
お魚店
はへーかやと

ね葉づら孝子

吉吉家
吉吉家

一士三
ふ青とえさなる
の紅金りふ
田代タリ

行幸屋

松和橋

八七ハ三
う梅の下の
毎日一丁目

お朝ち芋と
あく

本店
正女



通一丁目西側

十七士土

酒屋と賣文

経國

ナ村の様りかせ

ちまき

三十八士

たうじの音字づくの
うちえとおとをよめさんへ

山やの門や 和風亭

七十一十五

たうじの音字づくの

山やの門や 和風亭

十七士士
扇原とあすら
ちまき酒屋の

地角とひだき

若者亭

一十七士

ちく林よりいぢる處の

扇の門
久松

甘中庵

十六士士
扇の門よりいぢる處の

甘中庵



廣小路萬町

日午十士
りすけむる
なゆうらう
さくみれも

さくまうり
さくまき

半生産

一土十士
あべのや市

さりておれ
ゑのせと多

口を終つて

榮春牛

七十五士
あべのね市

さきゆくち附
木のかきゆく

日午門

至止室

七十ハ士
箇被とさる

アモイハ
アモイハ



まか
四角園

一セ
松葉
ウツミナハ

産みのつま

魚の市人

葉園

村
シナハ

かく
高市

そのあ

仙居
柳亭

一土七士
買人と園の

カクシマ物市

スケチマうん

山口



緑のすすきの下

西のや魚の多し

葉枝

けりとろぬ

一土七土
西のゆめ

幸運のゆめ

ねむくまち物の

美町庵

松木

十八十士
幸運を

たどる幸運の

幸運松木

西の

五月の夕

松木

幸運のゆめ

月の西

松木

七十七士
幸運のゆめ

幸運のゆめ

幸運のゆめ

8

十三土一ナ
みゆきとあづみや
すくん様一まへ西
さうる風のきの向 久松

一十ナ士
ねの木とゆと

ち ういかふづる月の
御ナコハナへぬ西

宝鏡子
伊志佐

一十ナ士
ゆゑゆきやうせと

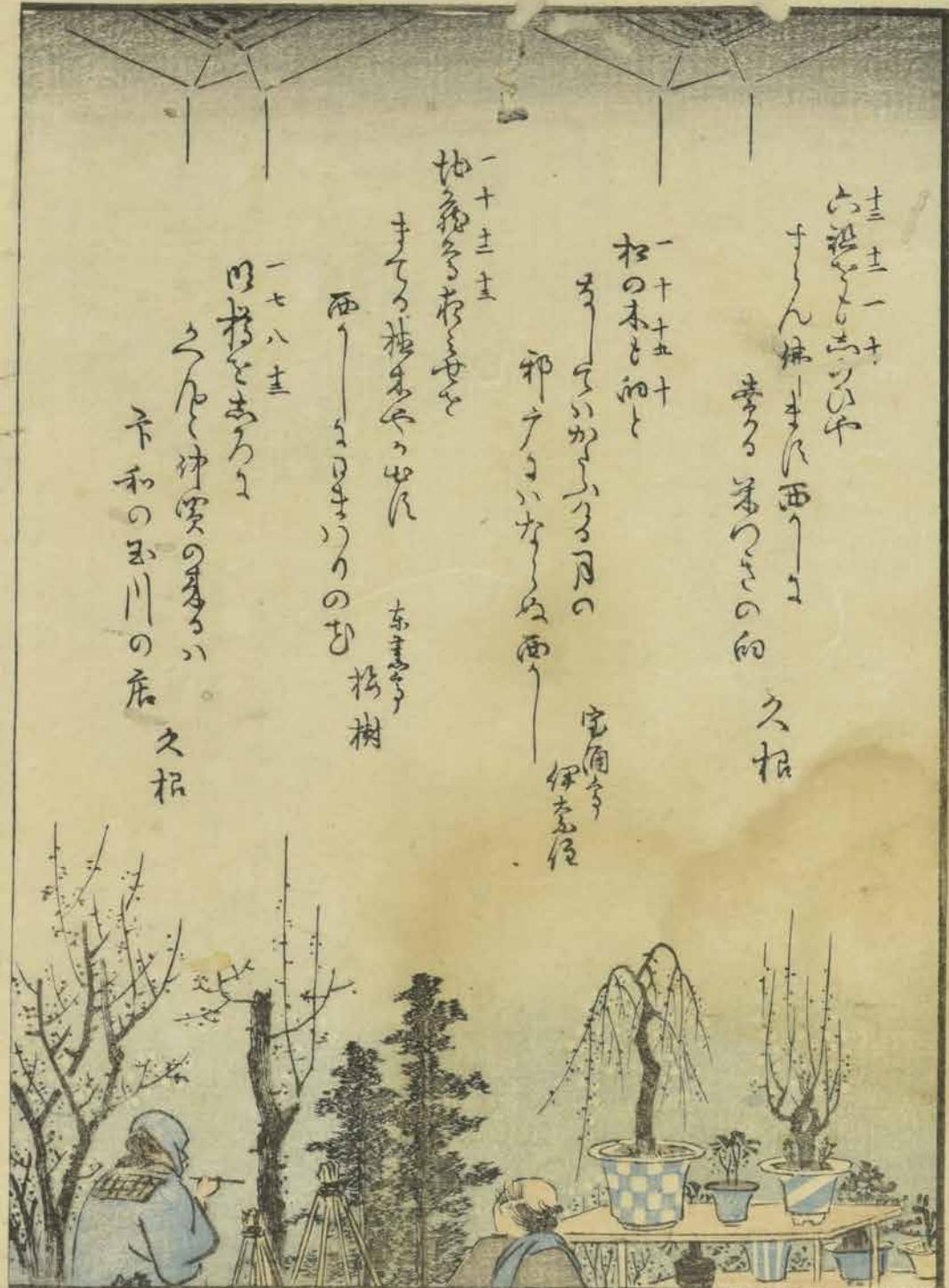
まての松木やうせん 西
ゆきとあづみ

松樹

一セハ士
ゆきとあづみ

ゆきとあづみ

幸和の玉川の店 え松



魚河岸ノ市



室町高歌新道



新店

七十主三十

新店

新店

新店

新店

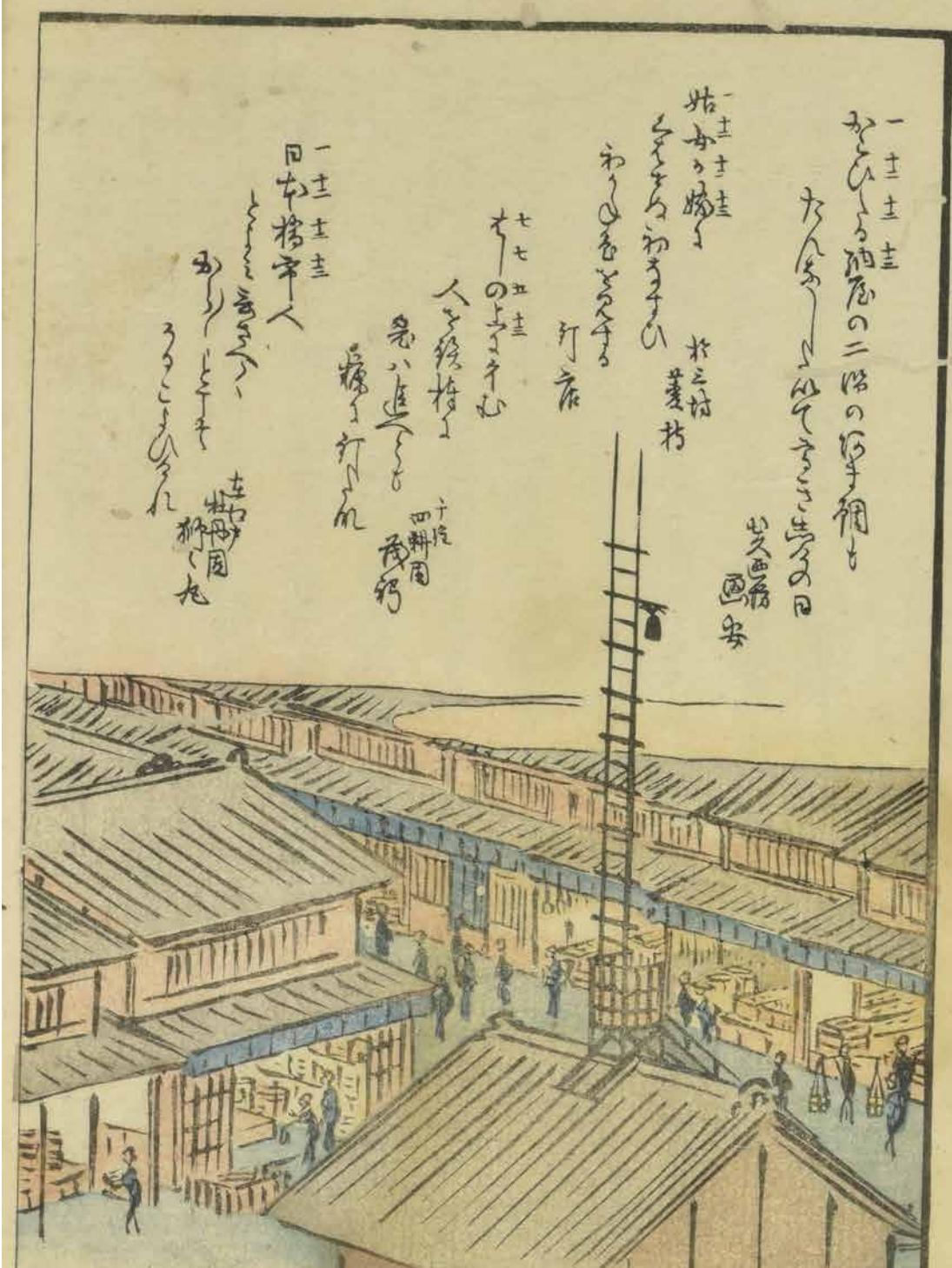
あひのまつり

あひのまつり

新店

新店の角

新店



詩書家集

五箇所集

伊勢國風

四角周

久松

四葉園集

西安

者よりをもろみ此の日本橋にかまう小利宿後
日本橋のまづもかへ船ハ船のそへはる富士の塔れ
難い山をあとすて小舟やの船にてまだるま
伊勢は雪や燕等類の車ひよとまくらがある日本橋
じの内そくくうひて富士もまく月との力の内
日本橋のまづもかへ船の出まくまきのね市 まか
今之のまづもかへ船のまづもかへまく月の内
急市の日や船りよかする富士よすけまくまの内
みくらまくねをさとりと尉と船をまくまくまく
店のつもんまくわこまのまくまくまくまく
日本橋あわゆのくわよとまくまくまくまくまく
日本橋あわゆのくわよとまくまくまくまくまく

兵庫の山を、船のつもむのらくまくまく

船のまづもかへ船の塔れをもくまくまくまくまく
船の塔れをもくまくまくまくまくまくまくまく
持つまの舟のすくやまの風うちむきくまの舟の裏
弓月と夜の市のか竹のまくまくまくまくまく
日本橋をへし船りよね月太ふひのまくまくまく
打のまくまくまくまくまくまくまくまくまく
石をくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
万葉集前序まくまくまくまくまくまくまく
伏勢の隠まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

三編
人

奇
文

角
圓

半
龜

馬
鷹

牛
因

夜
裏

和
朝

日
出

春
秋

來ましはあものひやとおはでにあすてうるを
至ましにうるのきう所おもよてて、宿屋のまえ
寺社とあるが、一西奈川結し、家、口代新所、また、四角園
磨石とあるのむじの本の持つたとおもわれ
少くりてまつらひむれ市と早まし、まわねのむれ
日本橋伊豆のふとあるお寺が、さきと初市
にい月のやまと井戸、お旅のうとむかうのまのあ
解と寄生とつるりとお市とまうみのせお
打店とすくつて、代呑のよとまことせきとせま
年とおはなはとまゆとお市とまゆのまくのまく
村ノ口とあへて、お茶を傳つてゐるのとぞ

お臺のうと温せとあひのたゞやく、魚乃市人

手引

去 来

春すね衣

春すね衣

春すね衣

春すね衣

春すね衣

春すね衣

春すね衣

春すね衣

お臺のうと温せとあひのたゞやく、魚乃市人
お産のまかやーのまかみをもそらまかやとね市の魚
魚とう網の用ひとあるおはなすまかへある口とお
役とまかやのひとおはなすとあるおはなす事実
きくらげんちの魚とうの實、一本持つてお市
古物園うちうきのうかの子とおはなすと本店
お茶とまか、今までおはなすとおはなすと本店
其の名とまかの取と焼をうらうるむち町のお
町とまかおお村へ行店へうとうふのぼうこどう
おのぬとおおくとおおくとお場もおおとおのぬと
おのぬとおおくとおおくとお場もおおとおのぬと

おのぬとおおくとおおくとお場もおおとおのぬと

おのぬと

口云格写とありと御のものとておきく市人
者市山宿の日をすすりあはれに市人 千足
是のちよも古格写に於いて書體

新開書院

久のらま店もむろ阿多みと書きわざ

新開書院

久のとて脚をすりあはれに大正年てちるアセ

新開書院

不二の脚をかうひる松の板へ完てアセ

新開書院

かくわく圓の後の竹籠、書本をんじの御市

新開書院

口を格唐ひ社トカセヒ、もと書の角の足

新開書院

馬の脚のやべらを一正年よりは角のね格

新開書院

魚の市もあら年令のかせだらけもひら 三川

新開書院

吾のの松葉もじとうと見よ出づなくあら松つよ

新開書院

久の脚子
新開書院

波度もうち御室も小内室や正門町うちたてせひと

新開書院

すかすみ毛色の正門、柱や屋根はほすやハ

新開書院

すれりふのやうの正門や、門の角の書の字をわら

新開書院

まののらうみのねうちくとてはまの字をもなも

新開書院

一土ハナ半車のうる松の下の床と書ふ鳥城の筆のまき

新開書院

ロホ松名もひ松のそり松はまねりて五階のえん 喜多
新開書院

新開書院

一土ハナ半車のうる松の下の床と書ふ鳥城の筆のまき

新開書院

市もすみのうる松の下の床やす月とも書ふ鳥城の筆

新開書院

すくやの書はまのままでロホ松名はまの筆

新開書院

余色のまきゆやえうるをいあの方と見る古橋固 サヌキ

サヌキ

神うりのをすんじて口半格やくへり事と申す

橋屋上野のわざひ能免も因みたがまの事

下段は色のまきゆやえうるをすんじての事と申す

体半格をすれ第口を松達の家と曰の事とまきて

鳥居のまきゆのうちのまきゆ御免のまきゆの届因の而うけ

あく事ハリヤマツの木の木の木の木の木の木の木の木の木

ま、也、草葉也市のもう所ヨリヤのやうまきゆお片

ゆうくかのいと、まきゆ店すらての半もまきゆまきゆ

左木よすおとろん身半格市もくづる候り大角

日の半の橋のよくまきゆを用のやうまきゆのす尺

舊免毛毛

お前よまちの處の一まきゆをまきゆあ、石乃白木や
青松のまきゆをまきゆあ、木のまきゆや松のまきゆ
宮川のまきゆをまきゆあ、木のまきゆのむす自際でまきゆ是半格
高きの高たまん是半格、ちやくあや勇士の室山
市、木のまきゆをまきゆてはまきゆがまきゆねひまきゆ是半格 大半
まきゆのまきゆはまきゆ、木のまきゆのまきゆ
青木のまきゆをまきゆてはまきゆ、木のまきゆ
青木のまきゆをまきゆてはまきゆ、木のまきゆ

舊免毛毛

脣肉酒紅
梅の門久根

脣肉尾

脣肉之言

陽月令

桔 沖

新葉毛毛

久 根

賀多磨九

陽月令

新葉毛毛

新葉毛毛

阳月令

新葉毛毛

新葉毛毛

新葉毛毛

新葉毛毛

神佛布施の日は、そのあへハ古事記

言葉の脣

新約聖書の箇所を記すと、日本語で書かれてゐる

絵の門を教

教會が受け取った金を、金庫に貯め、まひ市の方を主

袋を手

ある。入港の旨をうなづかし、金庫の金を

仲ね

セミセミの金を、金庫の金を、金庫の金を、金庫の金を、

年表

セミセミの金を、金庫の金を、金庫の金を、金庫の金を、

序文

本魚屋もすうへるやのあきとひはてたまちま店のあ

母故今舊の
名子亭

ハ一ハ十
せうりゆもひるの古事記とつえうちもあ
人ほよをすうさてりすこづら門前すらまくね市

左 三波
陽月令

セニセ一
すうするまうのあすかうく風うきのね市

桜園はち
明乃金

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

桑葉梅樹
明乃金

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

久松
久

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

経のあ鑑
久

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

久
久

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

甘紀

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

湯波鶴鳴

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

藤原令

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

多喜多也

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

日向半也

セナハ十
せうりゆもひるのあすかうく風うきのね市

日向半也

一七+ユ+十
古松園の木の初引を受令のれのつゝ日が

了禁ア禁

相子あはれすらまみれ天蓋だくせふうめりや

都御園

月もこゝてあるに日和すまほつうきのとひよし春可

春常

まほすまかたまつひのとひよしりうち物の市

松

詠さうゆかのうる灯籠をすりむる麻乃者板

松

清くりのまづみあせのとを構みくふ代のキムイ

松

月の春あらきのわの下よせて木のあらうまみれをキアリヤ世間をす

松

月を構えやしたてすまの木のとひよし朝市主は

松

年用をすましてすまの木のとひよし元を店

松

まほすまの木のとひよし構えや初のとひよしの聲アキ

松

いづくすまの日和すまほすり構へまはる

松

古松園の木のまほすりの役もきりつゝまシフ

松

まほすりあとひすてもむれ所の木のせら桂木やう金々

松

口先處すま木金をうつて木のまほすりせん

松

まほすりの急すひとむ室町の木とすま木

松

まほすりの木のとひよしの木の木とすま木

松

まほすりの木のとひよしの木の木とすま木

松

まほすりの木のとひよしの木の木とすま木

松

まほすりの木のとひよしの木の木とすま木

松

宿月会

豪傑會

狂月會

行の豪傑會

和月亭

和月亭

和月亭

和月亭

和月亭

和月亭

和月亭

火とひせられのむろ町をさりがとまへてうきま
春の鳥のなぐくの／＼みた木の葉がまよひるるね
おが、周そ／＼いと家のかなにころのゆすりもひなまく
口本格不二と同曲を書道もきと義あ、絵の萬能
まよすのねはとつぶれ市上のまもれもあ辱よ處
ひづらくるまも雪もかきぬくとも文多きほるの門
ほくやのうきを苦の底のまんじうと原すとひまく
おがふく、わのませるまし船とまのせきとゆる里船
角袖と身をあへ口をけ一社も、まみ市う船入
一ノセセセ
音人モテチテ音幕モテチテ音幕の船のどよいどよ
七十一七
写りと印や組との曲の用よひのくにめうめう
和月亭

いまと圓のひまごみくらねの口はせとす筆の筆辨、
西の地を守りて筆す佛のゆめゆう七うと
日本橋不二と無波をたがりまわしたの轟う市
引鶴のひきんぢうよう円井村やのつせう井戸等
か体のまへ序まの西とひまく魚浦とまくし
わ底のまう跡まきをかのゑのあらとくわき
日本橋うてまく雪のあくのまくとあくのまくは
口本格不二と同曲を書道もきと義あ、絵の萬能
太のまくややんさと御まくじてとあくまくま
富原と名もさかの舟とぬる船の底の底うまくまく
まくまくの舟とまくまくの舟の底うまくまくまく

秋月

朋の食

秋月

松の門鷺子

貞九

青霞

青霞

青霞

青霞

青霞

青霞

四季圖

松風草堂

久和物
物に因
物件好
物

馬子と春子、あまむくきの里や白木のあれよその
空はりやねらひまくらうあうとま圓の神の山た
鞆阿ともとふ園やの里や梅原うらすはせよのま
ね市の金とよしの野柳村と高柳をもててある宮町
あら魚のふるを海のえとひのせもまくじのめを
被絃のまらゆるさせの古松園まよあは葉寒床の半毛
日半松そよんの葉の葉落葉季引れぢれまのむろい
散まうるあらゆきと西へてかづく月のあすす
背柏の年の色年のまだ年、牡丹の花落えの花葉
吉向あらゆる鳥角のあつての鳥是くもをせがれ草
紙の割ころもさき市の中の年も十二切くまとて宮町

春子

秋子

松市、ひゑひまむすむちをまつてまうくせんと
市と空ふた合へくよく、刀柄のまくわよあらよせん まみ唐

度 明の食

あひのけとほまを物けす あとけをまくとせん

梨春仲ね

四内食

詮園をも

木松、あくまづ千まくに脚がりねふみとせん
れり、れりくわくわくくわくの馬くらひとせんおも
樹の木と樹のまくはくふをもすよの樹木のま

ふくらやまきのまくと床まくはくとせんじくまく
移手と脚と足とまきひとせんじくまくと

樹えもくすり ねあくとあらううまくと森く深おほひま
まのうひと金きくうひと金くうひと森く深おほひま

まくと金きくうひと金くうひと森く深おほひま

小圓所坐度

二十日後つゝかふの口を移す平まであくま第

井の水のまぐらの手粉兔とどくわぬえ日

月夜の仲のまづりあひのれどき魚市

月夜の仲のまづりあひのれどき魚市

本のれづかけの所を捨ててまた行方

まづてさくうりと橋岸に落して走る

六四緑まくねむ白木はるかと青森丸

鳥の市人の道もむねむねまづりあひ

夕年移りて市のみ川木の葉むねむね青森

ゆづるを捨やいはぬきのゆきゆきとびびりす

ウ年移えとまきの舟やよねあはせあらはせ

左ノ段
右ノ段

寝起宿

一七一
鳥年の吉ワリアキテあとの朝一もらはなつねり
一七二
そりうきや代のやれか三絆下一たる西岸の魚市
一七三
むろ附すあへ移の船一寄付すあへ移の船
一七四
旅の木のまつりてあはてふ市への限る五つアロ
一七五
轍一からうての舟河口せうてまくすとまく
一七六
まのや豆もはまよてゆくとてゆくとてゆくとて
一七七
日本移筋の日とくらむだれの下がは生御
一七八
かずくぬ船のまつりておほのまつりてゆくとて
一七九
日の木の感あちやん感とおおきまくとて
一八〇
日本移不二とまくとてまくとてまくとてまくとて

日本ちよどりつてお初のまほのいと家日子あ
日本松雲山へ入りて山法の事すもあらまきは後

鳥市のうちのひりのまほをあつむよきる舞

てあるをのまほのまほをあつむよきる舞

振りくさみ振りもきり所ねにわきくらる

か牛のすり舞の云の舞は絶景のねう牛あ

く角の牛角の肴ねとせりくらうのすりあ

鳥市くさみ振りもきりと振りまわる

をの店のまへりおもれがまくと振りまわる

かの小田ゑ門つすく舞まくとまくと振りまわる

打席や板のまくとまくと振りまわる

わねの舞

22

鳥市くさみ振りもきりと振りまわる

をの店のまへりおもれがまくと振りまわる

かの小田ゑ門つすく舞まくとまくと振りまわる

打席や板のまくとまくと振りまわる

其記

牛角ま

考究圖

意解書

解説

考究圖

解説

考究圖

解説

考究圖

解説

考究圖

解説

考究圖

解説

考究圖

解説

あまうてひでやひごくわがまのまわらをのきふらまく

かとみつまやねをまつまわすからりおれ

は河ひく市とのまよひたむまのひくのえ子

り半格氣れをみて魚の肉の味よきち市人

浦はれのれ田牛角と家計とまつてすゆう

をせすて風のまよひたまほす草モシマサ

す様のさやけく口卓モヒタの左近とるのと音

日半格へとさうひたす相あくがめのじとくと

一丁目まのまよひあらと正のやまくまのねん

ね市とまよひともあらの左近の馬とまよひ市は

へわのとよひとす様半後さす御すてちとし相

素簡月

有

方

吉

久

根

其

記

一青の日、はるもおそりん陶のまさんゆるさく
いさく、すうりとぼくとくらのあまむとまよひとまよひ
只半格二のねのまのまよひあひくとまよひとま
一ヒツい車ひ不のこうて産の間とがく口出づ
一まくの外のかくらむけの日す一妻人情のなれど
峰す、ね格の舟にえとすてまよひとまよひ
はあすりとくらの船りとくらのまのねろのけ
一ヒツ一車を移入ばうとこのよとて船ひつみまよひ
あ、の山よひとまのとて病はのまのとまだらふ所
日下りもくとまよひとまのとてのとまよひとま所

暮

金

九

支

食

衣

住

食

衣

食

衣

食

衣

食

衣

食

其

記

一ノ所小河義美の朝から暮まであの西河町
一ノ所の邊にやたらと河の名のいせの村のあそこ
三本の木立の間に通う所直角へりまつて居
が、もじまとひふりの橋をくわねのやの義美
一ノ所をなすせあいあまくに有のやをもつてし
ひの橋をかたづくれのゆき(鏡)をもつて南進
一ノ所のあらねやちの風景(風景)を記すの處市
橋をもとねが手のとばしまを下すのとまは
鳥居の傍(傍)のワキ(脇)のみどりの川(川)あ
おぐの川(川)のまほのわ(わ)せせ(せせ)か(か)く(く)の
が、前の岸(岸)の木(木)の下(下)が(が)る(る)の

ほ(ほ)と(と)の(の)病(病)よ(よ)せ(せ)ぬ(ぬ)所(所)不(不)よ(よ)う(う)と(と)ひ(ひ)の(の)

よ(よ)う(う)て(て)さ(さ)か(か)め(め)れ(れ)ぬ(ぬ)の(の)橋(橋)と(と)ま(ま)い(い)魚(魚)の(の)
里(里)橋(橋)あ(あ)ら(ら)わ(わ)か(か)く(く)の(の)橋(橋)と(と)ま(ま)い(い)魚(魚)の(の)

白(白)い(い)の(の)橋(橋)の(の)計(計)と(と)ふ(ふ)も(も)橋(橋)と(と)ま(ま)い(い)と(と)補(補)

日(日)本(本)金(金)具(具) 絹(絹)本(本)衣(衣)物(物)主(主)人(人)持(持)

十(十)萬(萬)貫(貫)の(の)土(土)作(作)り(り)あ(あ)れ(れ)て(て)ひ(ひ)ま(ま)く(く)

ひ(ひ)ま(ま)く(く)の(の)土(土)の(の)土(土)を(を)ま(ま)く(く)そ(そ)も(も)

ひ(ひ)ま(ま)く(く)の(の)土(土)の(の)土(土)を(を)ま(ま)く(く)そ(そ)も(も)

ひ(ひ)ま(ま)く(く)の(の)土(土)の(の)土(土)を(を)ま(ま)く(く)そ(そ)も(も)

ひ(ひ)ま(ま)く(く)の(の)土(土)の(の)土(土)を(を)ま(ま)く(く)そ(そ)も(も)

ほどの井や門はひらへてあたたかで室中並に 4か 四角圓

ある。阿波守の不のなかのえがくを度のよきすだ

後因考

あそがく色がむきて見るにうえに言ふに手のね

後のや

ちろくらねお深さとくも財一石のまゆる井取

を。井友

二じま橋てうわうらう橋もよひてあわる源と

水のや

神まみ部むらの源川がうとうとくをく井井

井。柳と光

はのまの西のま國のかきいえむすめや達てむとん

病園裏

2

せあうとくまつてうの井ハシを橋までかひあら

木のや

のまのま國かきいえむすめや達てむとんのかさ

翁翁亭

ねタヒ不ミニ井のアセスハ松をうらう井と名病し

月井

日向とくやのまの井の井と名病しとく井と名

翁翁亭

セタのあくまもくとく井の井と名病しとく井と名

松井

一井の井とく井の井と名病しとく井と名病し

久根

松井の井とく井の井と名病しとく井と名病し

望月亭

富山 はく名鳥井園

富山 大人機

かま井カマイのちかく鶴の山の山の村の清平とよおの月

まつてやる洞カミナリの枝ハシの山ヤマの川カワの清平

あやしも御カミとシマツル一ヒコとヒコあやしも御カミとシマツル川カワの月

あやしも御カミとシマツル一ヒコとヒコあやしも御カミとシマツル川カワの月

あやしも御カミとシマツル一ヒコとヒコあやしも御カミとシマツル川カワの月

あやしも御カミとシマツル一ヒコとヒコあやしも御カミとシマツル川カワの月

富山 宝名鳥井園

富山 宝名鳥井園

富山 宝名鳥井園

富山 市亭

富山 宝名鳥井園

富山 市亭

富山 宝名鳥井園

富山 市亭

富山 宝名鳥井園

富山 市亭

26

ひづれは秋本歌はの歌のまきととつり、又のわが
宝山の秋アキの歌ウタの歌ウタの歌ウタの歌ウタの歌ウタ

富山の秋アキの歌ウタの歌ウタの歌ウタの歌ウタの歌ウタ

